

# 豪雨・暴風の量的予測研究へ

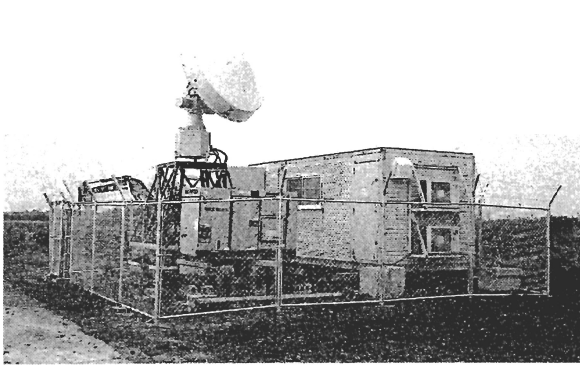
## 名古屋大助教から研究組織

### 下地島、多良間島に観測機器設置



坪木和久 理学博士

台風に伴う豪雨と暴風の量的高精度予測を旨とする観測プロジェクトが、下地島と多良間島で始まっている。名古屋大学・地球水循環研究センター助教の坪木和久理学博士が代表を務める研究組織がこのほど宮古入りし、両地域に降雨観測用ドップラーレーダー（観測機器）を設置。研究では、地域の雨の特性や台風の構造が明らかに科学的成果が期待される。



下地島（写真上）と多良間島（同下）に設置された降雨観測用ドップラーレーダー（写真は坪木理学博士提供）

れるほか、台風に伴う豪雨災害の軽減への貢献につながるという。

この研究は、台風に伴う降雨帯の構造とその形成メカニズムを調べ、台風の豪雨と暴風の量的高

精度予測を行うことが目的。研究組織は、名古屋大学・地球水循環研究センター、京都大学・防災研究所、沖縄亜熱帯計測技術センターの三団体六人の研究者が携わっている。

同研究組織は、二〇〇八年三月三十一日までの期間、下地島と多良間島の二台の観測機器を連動させて研究を行う。雨量の多い梅雨の時期に合わせる。

せて設置した。坪木博士によると、特に、下地島と多良間島に一台ずつ設置された機器の観測範囲が重なり合う部分で、雲の中の雨風の詳細な分布が分かるという。

## 「地域に恩返し」

### みやこ学園 学校周辺で清掃活動

知的障害者授産施設みやこ学園（伊志嶺博司施設長）は十四日、学園周辺のボランティア清掃活動を行った。施設利用者ら約七十人が参加し、学園周辺の山中地区の空き缶などのごみを拾い集めたほか、無造作に伸びた雑草の除去作業に汗を流した。

作業は午後一時半から実施した。各班に分かれてそれぞれ担当箇所を清掃。園芸班・食品班は鏡原にあるファミリーマートからみやこ学園向けに清掃活動をスタートさせ、ウォーキングを兼ねながら道路のごみ拾い。学園出向班は、山中農村公園の除草作業を行った。

伊志嶺施設長は「私たちは地域の協力のおかげで施設を運営することが

できる。今回、清掃活動を通して地域に恩返しをしたいと実施した。清掃で地域に感謝の気持ちを

清掃活動を通して▽地域への恩返し▽体力増進▽地域住民との交流が狙い。定期的年に二、三回実施しているとい

にサロン活動が有り、五、六月か九、十月頃に活動の一環として、

利用者は各班に分かれて清掃活動に取り組んだ

理問題等、越えなければならぬハードルが



## 又高

活動の一環として、

利用問題等、越えなければならぬハードルが

理問題等、越えなければならぬハードルが